

# コスト高に対する価格転嫁に苦慮

## 5月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

### 概況

更なる円安による輸入原材料の値上げや、高温・雨不足等による野菜価格の高騰などのコスト上昇を価格転嫁できない業種が多く見られる。一方、消費者の理解を得られている業界も出始めており、今後を期待している。

製造業	食料品		パンはバター不足やコスト高の消費者理解を得て、多少高くても買う流れへと変化している。菓子はお節句の注文は少ないが例年並みに推移している。製麺は小麦粉の値上げが7月に迫るが価格改定は難しい。酒造は前年比で好調に推移している。
	繊維・同製品		婦人服地は秋物の生産が活発化しており、輸出向けは引き合いが多くなり今後を期待している。和装織物は高級品の動きも見られるが、品種によって浮き沈みがある。伊勢崎織物は小口商いが中心で、依然厳しい状況が続く。
	窯業・土石製品		生コンは県央・東毛が堅調である。コンクリートブロックは製品単価が上昇傾向である。コンクリート製品は例年並みに推移している。砕石は販売価格が上昇傾向で、渋川・東毛地域では売上高・収益ともに増加、設備操業度は低下傾向である。
	機械・金属		富士重工関連は好調続くが、軽自動車税の値上げもあり軽自動車関連は低調である。また若年層の確保難も見られる。全体的にはコスト上昇を価格転嫁できず、自動車メーカーの生産調整なども影響して厳しい状況が続く。
	その他の製造業		製材は単価下落と荷動き鈍化が続く。印刷は今後紙の値上げの本格化が予想される。ゴム製品は海外子会社を有する企業が円安で厳しい状況である。紙加工品は食品・自動車関連は好調だが、全体的には低調が続く。
非製造業	卸売業		卸団地は輸入原材料や国内野菜の価格高騰を転嫁できず、利益確保が難しい状況で、依然として人手不足が続く。農産物卸は高温・雨不足の影響で野菜相場が高騰している。水産物卸も気温上昇で鮮魚をはじめ全体的に売上が減少している。
	小売業		家電小売は大手の大規模な店舗閉鎖等もあり厳しい状況である。ガソリン小売価格は前年比7円/ℓ程度下落している。商店街はイベントでは賑わい見せるも夏日が続き日常の人は少ない。生花小売は母の日を中心に活発な動きが見られる。
	サービス業		温泉旅館はGWの日の並びや好天の影響で堅調に推移したが、近年は一部屋当たりの平均利用数に減少傾向が見られる。不動産取引は新築建売住宅が低調だが中古住宅は例年並みに推移している。建物設計は依然厳しい状況が続く。
	建設業		防水工事は少しずつ動きが活発化している。電気工事はLED工事の増加傾向が続くも、今後の受注量が不透明のため作業員の確保に苦慮している。塗装工事は住宅の塗り替え等も少なく減少傾向が続く。鉄構業は依然として人手不足が続く。
	運輸業		全体的に荷動きは低調で回復の兆しは見られない。燃料は毎月値上げ傾向が続く。倉庫収入や新たなサービスで収益源を確保する業者も見られる。小口輸送は4月の運賃値上げの影響もあり売上・件数ともに大幅に減少している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

### 県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 105.9(前月比+1.6%)「県統計課・4月」
- 販売電力量 124,988万KWh(前年同月比+1.4%)「東電群馬支店・4月」
- 住宅着工戸数 937戸(前年同月比+6.6%)「県建築住宅課・4月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規1.84倍:有効1.24倍「群馬労働局・4月」
  - 大型小売店販売額 212億円(前年同月比+4.7%)「経済産業省・4月」
  - 消費者物価指数(全国) 103.7(前年同月比+0.6%)「総務省統計局・4月」
- 〈鉱工業生産指数は17年=100とした指数・消費者物価指数は22年=100とした指数〉